

# 泌尿器 本試 (2016.07.08 実施)

※(1)～(30)はほぼ例年通りだったため省略

(31)淋菌感染症について正しいのはどれか。

- a 潜伏期間は10～14日である。
- b 淋菌はグラム陽性双球菌である。
- c 膀胱炎として発症することが多い。
- d クラミジアとの混合感染が90%にみられる。
- e ニューキノロン系抗菌薬に対する耐性株が増加している。

(32)男性不妊症の原因と対応の組合せで正しいのはどれか。

- a 射精障害—テストステロン補充療法
- b 精索静脈瘤—精路再建術
- c 閉塞性無精子症—ゴナドトロピン補充療法
- d 非閉塞性無精子症—精巣内精子採取術
- e 低ゴナドトロピン性性腺機能低下症—人工授精

(33)精子形成のために Sertoli 細胞に直接作用するホルモンはどれか。2つ選べ。

- a ACTH
- b FSH
- c GnRH
- d LH
- e テストステロン

(34)直腸指診で前立腺癌を疑う所見はどれか。

- a 圧痛
- b 石様硬
- c 弾性硬
- d 血液付着
- e 表面平滑

(35)男性の尿路クラミジア感染の検査として最も適切なものはどれか。

- a 尿沈渣
- b 精液検査

- c 尿の PCR 法
- d 血液培養検査
- e 尿の Gram 染色

(36) ヒトパピローマウイルスが原因となる疾患はどれか。

- a 軟性下疳
- b 精巣上体炎
- c 亀頭包皮炎
- d 非淋菌性尿道炎
- e 尖圭コンジローマ

(37) 前立腺癌の原発巣に対して根治的放射線療法として行われるのはどれか。2つ選べ。

- a 腔内照射
- b 組織内照射
- c 電子線治療
- d 強度変調放射線治療
- e 放射性同位元素内用療法

(38) 無尿をきたすのはどれか。

- a 大腸癌
- b 膀胱癌
- c 子宮筋腫
- d 前立腺肥大症
- e 両側尿管結石

(39) 尿路の機能について誤っているのはどれか。

- a 尿管は蠕動運動で尿を輸送する。
- b 陰部神経は蓄尿に関与する。
- c 閉鎖神経は排尿に関与する。
- d 前立腺には  $\alpha 1$  受容体が分布する。
- e 外尿道括約筋は随意筋である。

(40) 疾患と検査法の組合せで有用性が低いのはどれか。

- a 腎腫瘍—腹部造影 CT
- b 尿管腫瘍—静脈性尿路造影
- c 膀胱尿管逆流—尿管鏡検査

- d 間質性膀胱炎—膀胱鏡検査
- e 前立腺腫瘍—経直腸超音波ガイド下生検

(41)発熱を伴わないのはどれか。

- a 腎膿瘍
- b 急性腎盂腎炎
- c 急性膀胱炎
- d 急性前立腺炎
- e 急性精巣上体炎

(42)過活動膀胱の症状はどれか。2つ選べ。

- a 頻尿
- b 血尿
- c 排尿痛
- d 尿意切迫感
- e 腹圧性尿失禁

(43)経尿道的手術の適応とならないのはどれか。

- a 尿管結石
- b 膀胱結石
- c 膀胱癌
- d 前立腺肥大症
- e 前立腺癌

(44)排尿障害の診断で、まず行うのはどれか。

- a 遺伝子検査
- b 神経伝導検査
- c 膀胱内視鏡検査
- d 腹部超音波検査
- e 腹部 X 線撮影

(45)61歳の女性。尿失禁を主訴に来院した。3年前から遺伝性脊髄小脳変性症で治療を受けている。2か月前から突然の尿意を伴わない尿失禁が出現したため受診した。くしゃみでは尿は漏れない。意識は清明。構音障害、協調運動障害および失調性歩行がある。腹部は平坦、軟で、圧痛を認めない。尿所見：蛋白(－)、糖(－)、沈渣に赤血球 1～4 個/1 視野、白血球 1～4 個/1 視野。腹部超音波検査で残尿を認めない。

考えられる尿失禁の種類はどれか。

- a 溢流性
- b 機能性
- c 切迫性
- d 反射性
- e 腹圧性

(46)前立腺肥大症でみられないのはどれか。

- a 残尿感
- b 夜間頻尿
- c 尿線途絶
- d 排尿後尿滴下
- e 腹圧性尿失禁

(47)尿路結石症の危険因子はどれか。3つ選べ。

- a 糖尿病
- b 長期臥床
- c 悪性腎硬化症
- d Cushing 症候群
- e 尿細管性アシドーシス

(48)頻尿の原因で誤っているのはどれか。

- a 尿崩症
- b 肥満症
- c 膀胱炎
- d 糖尿病
- e 前立腺肥大症

(49)45歳の男性。人間ドックで右腎の腫瘍を指摘されて来院した。1か月前の人間ドックの超音波検査で右腎に直径3cmの腫瘍を指摘された。自覚症状はない。体温36.3度。血圧138/82mmHg。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。尿所見：蛋白(-)、糖(-)、沈渣にRBC 1~4/1視野、WBC 1~4/1視野。血液所見：RBC 440万、Hb 14.8g/dL、Ht 41%、WBC 4600、血小板 18万。血液生化学所見：総蛋白 7.3g/dL、アルブミン 3.9 g/dL、総ビリルビン 1.0mg/dL、AST 38IU/L、ALT 32IU/L、LD 216IU/L(基準 176~353)、 $\gamma$ -GTP 38IU/L(基準 8~50)、尿素窒素 14mg/dL、クレアチニン 0.9mg/dL、尿酸 6.3mg/dL、血糖 82mg/dL、Na 139mEq/L、K 4.6mEq/L、Cl 106mEq/L。CRP 0.2mg/dL。腹部造影CTで

早期に染まり、wash out している腫瘍があった。

治療として適切なのはどれか。

- a 免疫療法
- b 放射線治療
- c 抗癌化学療法
- d 分子標的薬投与
- e 根治的右腎摘除術

(50)65歳の男性。血尿を主訴に来院した。3か月前から時々血尿を自覚していたが、自然に消失していたため医療機関を受診していなかった。2日前から血尿が持続するため受診した。喫煙は20本/日を45年間。飲酒はビール350mL/日を20年間。身長165cm、体重90kg。血圧160/100mmHg。尿沈渣に赤血球多数/1視野、白血球5~10/1視野。尿細胞診はクラスV。脊髄くも膜下麻酔下で経尿道的膀胱腫瘍切除を行った。病理所見では尿路上皮癌pTaと上皮内癌とを認める。術後1か月目に施行した尿細胞診でもクラスVであった。

この患者の治療として適切なのはどれか。

- a 膀胱全摘術
- b 放射線療法
- c 抗癌化学療法
- d 分子標的薬投与
- e BCG膀胱内注入療法

(51)25歳の男性。陰嚢腫大を主訴に来院した。6か月前から陰嚢内に硬結を自覚していたが痛みがないため医療機関を受診していなかった。1か月前から陰嚢内の硬結が腫大してきたため受診した。右精巣は鶏卵大に腫大し圧痛は認めない。陰嚢部超音波検査で右精巣は内部不均一である。胸腹部造影CTで明らかな異常所見を認めない。血液生化学所見:LD 224 IU/L(基準176~353)、hCG 0.3 mIU/mL(基準0.7以下)、 $\alpha$ -フェトプロテイン(AFP) 8 ng/mL(基準20以下)。右精巣腫瘍と診断し右高位精巣摘除術を施行した。今後の治療方針として無治療経過観察を選択した。

経過観察中に転移再発が生じやすい部位はどれか。

- a 骨盤リンパ節と脳
- b 後腹膜リンパ節と脳
- c 後腹膜リンパ節と肺
- d 鼠径部リンパ節と肺
- e 鼠径部リンパ節と骨

(52)51歳の男性。左の下腹部から側腹部にかけての痛みを主訴に来院した。昨日、仕事中

に左背部に軽度の痛みが出現したが 30 分ほどで軽快した。本日午前 8 時ごろ、出勤途中の電車の中で、突然、左の下腹部から側腹部にかけての強い痛みが出現したため受診した。来院の途中に悪心と嘔吐があった。意識は清明。体温 36.3℃。血圧 158/94 mmHg。顔色は蒼白で冷汗を認める。腹部に反跳痛を認めない。左の肋骨脊柱角に叩打痛を認める。尿所見：蛋白 1+、糖 (一)、潜血 3+、沈渣に赤血球 15~30/1 視野、白血球 1~4/1 視野。血液所見：赤血球 460 万、Hb 14.6 g/dL、Ht 46 %、白血球 8300、血小板 22 万。血液生化学所見：総蛋白 7.1 g/dL、アルブミン 3.8 g/dL、総ビリルビン 1.1 mg/dL、AST 35 IU/L、ALT 32 IU/L、LD 186 IU/L(基準 176~353)、 $\gamma$ -GTP 45 IU/L(基準 8~50)、尿素窒素 23 mg/dL、クレアチニン 1.2mg/dL、尿酸 8.6 mg/dL、血糖 92 mg/dL、Na 136 mEq/L、K 4.0 mEq/L、Cl 109 mEq/L、Ca 9.2 mg/dL。CRP 1.2 mg/dL。腹部超音波検査で左水腎症、左腎結石および左尿管結石を認める。結石は腹部単純 CT で白く見えるが、腹部単純 X 線写真ではうつらなかつた。

この患者で予測される結石成分はどれか。

- a 尿酸
- b 炭酸カルシウム
- c リン酸カルシウム
- d シュウ酸カルシウム
- e リン酸マグネシウムアンモニウム

(53)58 歳の男性。PSA 高値を指摘され来院した。7 年前から人間ドックで定期的に PSA を測定していたが基準値を超えたため受診した。排尿障害を認めない。直腸指診で前立腺はくるみ大、弾性硬で両葉に小結節を触知する。PSA 6.5 ng/mL(基準 4.0 以下)。骨盤部 MRI の T2 強調像で前立腺辺縁領域に低信号を認めるため前立腺生検を施行した。病理診断では前立腺左葉の 6 本中 2 本、右葉の 6 本中 1 本に中分化腺癌(Gleason score 4+4)を認める。骨シンチグラフィでは異常な集積を認めない。

対応として適切なのはどれか。2 つ選べ。

- a 放射線療法
- b 抗癌化学療法
- c PSA 監視療法
- d 前立腺全摘除術
- e 分子標的薬投与

次の文を読み、54、55 の問いに答えよ。

75 歳の男性。尿が出ないことと腹部の膨満感とを主訴に来院した。

現病歴：2 日前からくしゃみと鼻汁のため市販の総合感冒薬を内服していた。昨夜から尿が出なくなり、下腹部の膨満感と疼痛が出現した。以前から尿が出にくく残尿感があったと

いう。

既往歴：10歳時に虫垂切除術。

生活歴：無職。妻と2人暮らし。喫煙は45歳まで20本/日を25年間。飲酒は機会飲酒。

家族歴：特記すべきことはない。

現症：意識は清明。身長175 cm、体重80 kg。体温36.7℃。脈拍88/分、整。血圧120/84 mmHg。呼吸数20/分。SpO<sub>2</sub> 98 % (room air)。皮膚は乾燥。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。口腔内と咽頭とに異常を認めない。甲状腺腫と頸部リンパ節とを触知しない。心音と呼吸音とに異常を認めない。下腹部は緊満しており、恥骨上に圧痛を認める。

(54) この患者に直腸指診を行った際の前立腺所見はどれか。

- a 圧痛
- b 熱感
- c 一部が石様硬
- d 可動性の消失
- e 弾性硬の腫大

(55) この患者に尿道カテーテルを留置する際の手順で正しいのはどれか。

- a 清潔操作は不要である。
- b 患者に碎石位をとってもらおう。
- c 陰茎を十分に牽引して挿入する。
- d 留置したカテーテルは皮膚に固定しない。
- e 挿入中に抵抗を感じたところで先端のバルーンを膨らませる。

(56)～

排尿記録を読む問題

- ・ 昼間、夜間、一日、それぞれの排尿回数、尿量を答えよ
  - ・ 夜間多尿指数を求めよ
  - ・ 当てはまるものをすべて選べ
- ex) (夜間、昼間)頻尿、(夜間、昼間)多尿、乏尿、無尿、etc

正答

(31) e	第 109 回国試-A 問題 12 番	
(32) d	110-A11	
(33) be	109-G33	
(34) b	108-C7	
(35) c	108-I28	
(36) e	110-I28	
(37) bd	107-B38	
(38) e	107-F12	
(39) c	106-B5	
(40) c	106-B24	
(41) c	106-C4	
(42) ad	106-D17	
(43) e	106-E21	
(44) d	110-C7	
(45) d	110-E49	←2015 年度は 105-C24(下に記載)だった
(46) e	105-D10	
(47) bde	105-D18	
(48) b	105-F14	
(49) e	109-A41	
(50) e	110-A35	
(51) c	110-D27	
(52) a	110-D35	
(53) ad	110-D58	
(54) e	110-H37	
(55) c	110-H38	
(56)~	(109-E57)	←初めて排尿記録の問題が出たため 対策が必要と考えたらしい 問題形式は国試とは違っていた

(105-C24)

52歳の女性。尿失禁を主訴に来院した。笑ったときや咳・くしゃみをしたときに尿が漏れるが、尿意を感じてからトイレに向かっても間に合うという。排尿困難や夜間頻尿を認めない。

この患者の尿失禁について可能性が高いのはどれか。

- a 溢流性
- b 機能性
- c 混合性
- d 切迫性
- e 腹圧性

答え e